

台風3号に対する農作物の事前・事後対策

平成29年7月4日
農業技術課

台風第3号は、4日6時には、長崎市の南西約120キロにあって、1時間におよそ45キロの速さで北東へ進んでいます。中心の気圧は985ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は30メートル、最大瞬間風速は40メートルで、中心から半径40キロ以内では風速25メートル以上の暴風となっています。

4日朝には、九州北部地方に上陸する見込みです。4日は、西日本から東日本を東北東に進み、5日朝には関東の東海上に達するでしょう。

山梨付近に上陸する恐れは少ないと思われませんが、台風の影響による強い雨や強風のおそれがありますので、今後の台風情報に注意し、被害防止のための事前・事後対策の徹底をお願いします。



台風の中心が予報円に入る確率は70%です。

共通事項

気象情報に注意し、事前対策を早め実施する。台風が接近した場合には、強風等による人的被害の危険性が高まるので、大雨や強風が治まるまでは、見回り等は行わない。また、大雨が治まった後でも増水した水路その他、危険な場所には近づかないなど安全には十分注意し、転落、滑落事故に遭わないように慎重を期す。

ハウス等については、強風に備え、金具等の緩みなどを点検、補修するとともに、マイカ線などによる被覆資材の固定、妻面の補強など、暴風対策を実施するとともに、飛来物による損傷を防止するため、周辺で強風によって飛ばされる恐れのあるものは、あらかじめ片付けておく。また、農機具庫や作業小屋等についても必要な補修や強風対策を行う。

収穫期を迎えた農作物については、集出荷施設等の指示に従って収穫を行うが、未熟なものは収穫しない。

果 樹

〔事前対策〕

冠水、滞水の恐れのあるほ場では、排水路を点検、補修、整備する。
傾斜地等では、樹冠下の土壌流亡を防ぐため、敷ワラや敷草を行う。
モモ、スモモ等収穫期を迎えている品種は、集出荷施設等の指示に従って収穫を行うが、未熟なものは収穫しない。

<立木果樹>

倒伏や主幹部の損傷を防止するため、支柱等により固定する。帆柱が設置してあるモモ園等では、針金を点検し補修する。
枝のゆれによる落果を防ぐため、風の当たりやすい枝を中心に支柱等で固定する。
反射マルチを敷いている園では、強風でマルチが飛ばされないようにマルチの押さえを追加する。

<棚栽培果樹>

強風による棚のゆれや倒壊を防ぐため、つか杭を追加設置する。
ブドウおよびナシ・モモ・スモモの棚栽培では、棚の周囲に防風ネットを設置する。
ブドウでは、新梢が強風により棚から外れるのを防ぐため再誘引を行う。

<施設果樹>

施設栽培では、棚やパイプ等の骨材の点検を行い、必要に応じて補修や補強を行う。
特にビニールがまくられないようにマイカ線等の点検を徹底する。
オウトウやブドウの雨除けハウスでは、施設の倒壊を防ぐため、風が強くなる前にビニールを巻き上げる。

〔事後対策〕

園地が滞水している場合は、速やかに排水対策を行う。また、傾斜地で根元の土壌が流亡している場合は、土寄せを実施する。

樹が倒伏した場合は、台風通過後直ちに、根を切らないように樹を起こし、根元に土を寄せ支柱等で固定する。

太枝が裂けた場合は、裂傷部をビニールで覆い、縄等で結束する。なお、裂傷がひどい場合は、裂傷部を平らに剪除し、ゆ合剤を塗布する。

有袋栽培のモモで、二重袋の外袋など袋が外れたものは、袋をかけ直す。

落果した果実は、病害の伝染源となるため、速やかに園外へ持ち出すか、土中に埋める。

ブドウでは新梢の再誘引、カサのかけ直しを行う。葉ズレ、カサズレ、打撲のひどい果粒は摘粒する。また、着色期以降のブドウでは、裂果が発生しやすいため、裂果が見られた場合は、速やかに除去する。

強風や雨により、枝葉や果実等への損傷や泥のはね上がりなどから、病害の発生が心配されるため、防除基準にしたがって薬剤防除や発病果などの除去を徹底する。

ブドウでは「晩腐病」「べと病」、モモでは「灰星病」「ホモプシス腐敗病」「疫病」、スモモでは「灰星病」、オウトウでは「褐色せん孔病」リンゴでは「斑点落葉病」、ナシでは「黒星病」「輪紋病」カキでは「円星落葉病」などの発生が懸念されるため防除を徹底する。

施設栽培では、棚やハウスの骨材、ビニール、各種の装置、機具、機械等を点検し、破損のある場合は修理する。

野菜

〔事前対策〕

ほ場周辺の排水路を点検、補修、整備し、排水路からの逆流防止のため、ゴミ等を取り除く。また、ほ場内には、排水溝を設ける。

風の強く当たる地域では、ほ場周辺に防風ネットを設置する。

ナス、トマト、キュウリ等は、倒伏を防ぐため、支柱の補強、固定、誘引等を行う。

〔事後対策〕

滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。

茎葉の損傷などにより、病害の発生が懸念されるため、防除基準にしたがって予防散布を徹底する。

茎葉の損傷が激しい場合は、樹勢回復を図るため葉面散布を行う。

ナス、キュウリ、トマト等は、キズ果を早めに除去し、樹の負担の軽減を図る。

倒伏したものは速やかに引き起こし、誘引する。この際、根を切らないように注意する。

スイートコーンは、無理に引き起こすと根を傷めるので、原則そのまま管理する。

管理作業等の支障になる場合は、なるべく根を切らないように引き起こす。

花き

〔事前対策〕

野菜の事前対策 ～ に準拠して、被害防止に努める。

露地切り花は、フラワーネットや支柱などの点検・補強を行い倒伏防止に努める。

鉢花の露地ベンチ栽培では、ベンチに固定できる鉢利用（C鋼鉢）や穴あきトレイを利用するなど倒伏防止に努める。

〔事後対策〕

滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。

露地切り花が倒伏した場合は根を切らぬように引き起こす。

茎葉の損傷により、白さび病、灰色かび病など病害の発生が懸念されるため、防除基準にしたがって予防散布を徹底する。

水稲

〔事前対策〕

浸水・冠水害を防止するため、排水路の点検、補修、ゴミの除去を行う。

前に水口、排水口をふさぎ、水の流入を防ぐ。

〔事後対策〕

浸水や冠水した水田では、早急に排水に努め、新鮮な水を灌漑する。

大豆

〔事前対策〕

ほ場周囲に排水溝を設置する。

滞水しやすい部分には、あらかじめ溝切りをする。

〔事後対策〕

滞水しているほ場は、速やかに排水を行う

畜産

〔事前対策〕

畜産施設については、損傷、倒壊等为了避免するため早めの点検を行い、必要に応じて補修を行う。

畜産施設への浸水の恐れがある場合、溝を掘るなどして排水に努める。また、畜舎への浸水等による家畜への被害に備え、事前に避難場所の確認などを行う。

停電や断水等への対応を確認し、必要に応じて発電機等の手配をするとともに、搾乳作業やバルククーラーの冷却に支障のないよう、万全を期す。

〔事後対策〕

飼料作物

- ・冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。

家畜

- ・養分の低下した飼料作物や品質の低下した濃厚飼料の給与をする場合は、栄養価や嗜好性等にも配慮し、家畜の生産性が低下することのないよう注意する。

畜舎

- ・天候が回復した後、直ちに畜産施設内及びその周辺の排水を行う。また、土砂が流入した場合には、再度の土砂流入等の事故に十分注意しつつ、土砂を除去する。
- ・台風通過後は、畜舎内外の消毒を徹底し、疾病等の未然防止に努める。